

公益財団法人日本セーリング連盟  
サステナビリティレポート2024



# 目次

1. サステナビリティポリシー
2. 会長メッセージ
3. 2024年の総括
4. 大会補助金の取組み
5. SDGs貢献アプリのご紹介
6. ドローンマークの活用
7. 加盟団体の取組(ディンギー系・クルーザー系)
8. アンバサダー制度のご紹介
9. バイオテックH2社との取り組み
10. その他トピックのご紹介
11. サステナビリティ推進パートナーのご紹介

# サステナビリティポリシー

当連盟は、「残したいのはきれいな海」というスローガンのもと、以下の海洋環境保全に関する取り組みを実施しております。本レポートでは、2024年度における私たちの活動を振り返り、その成果をまとめました。

## 1. サステナブルなセーリング競技・組織経営を実現し、インパクトを創出します。

- a. セーリングを通じて排出されるごみをゼロにします。
  - セーリング競技用品(セール・ウェットスーツ・金属パーツ等)のリサイクル
- b. 海洋プラスチック問題に関心を寄せ、シングルユースプラスチックを削減します。
  - マイボトルの推奨
  - 不要セールを活用したエコバックの制作
- c. セーリング競技を通じて排出される二酸化炭素(CO2)を削減(脱炭素化)します。
  - 運営艇のEV化・ドローンマークの活用
  - 外洋艇・クルーザーの自然エネルギー(太陽光発電)の活用

## 2. サステナビリティへの貢献を評価し、文化普及・イノベーションを支えます。

- a. セーラー・団体のサステナビリティへの貢献を評価します。
  - SDGs貢献アプリによる定着化・可視化
  - サステナビリティ貢献の表彰
- b. 取り組みへのイノベーションを促し、事例・ナレッジを共有・発信します。
  - サステナビリティトライアルの事業補助金
  - 実施調査・団体支援
  - セーラー・団体の取り組み発信
- c. 環境教育・文化の継承を行います。
  - 環境保全の教材開発
  - サステナビリティスポーツのファン獲得



# 日本セーリング連盟 会長メッセージ

公益財団法人日本セーリング連盟

会長 馬場 益弘



公益財団法人日本セーリング連盟は、2024年4月に海洋環境保全の取り組みの指針として「サステナビリティバイブル」を策定し、この1年間取り組みを推進してきました。サステナビリティ推進パートナーのご協力のもと「SDGs貢献アプリ」の普及・活用、ENEOS社の協力によるドローンマークの活用やGreen部門表彰、競技大会での環境貢献活動に対する「環境キャンペーン補助金」、国スポやインカレ大会における不要セールを活用したエコバックの制作ワークショップ、環境教育教材の活用などに注力してきました。また、SNSを通じた対外発信も心がけ、「サステナビリティアンバサダー」の委嘱を行い、JSAFのサステナビリティ活動の訴求に努めてきました。

こうした地道な取組の実績やインパクトを、KGI/KPIに照らして謙虚に振り返り、定期的に評価し、今後のより一層の発展に向けて、連盟・会員・加盟団体・特別加盟団体が一体となって、さらなる取組の改善を図ることが求められています。「サステナビリティバイブル」に賛同して活動して下さったすべての方々への感謝の気持ちを込めて、本年の取組の成果をサステナビリティレポートとしてとりまとめてお送りし、「サステナビリティバイブル」の推進主体の責務を果たすとともに、今後に向けた決意を新たにしていきたいと思います。

# 2024年の総括

サステナビリティバイブルに定義したKGIおよびKPIの達成に向けた取り組みの成果は、以下の通りです。

## KGI

サステナビリティを推進するリーダーとして、自他ともに認められる存在になります。



## 2024年度の成果

- JSAFが実施した会員向けアンケートでは、45%が自身をリーダーとして取り組んでいると評価した。
- 日本財団からサステナビリティ推進団体として認定され、江の島オリンピックウィークでの海洋保全活動に対して助成金を獲得した。

## KPI

すべての公認大会に関する活動でのシングルユースプラスチック使用量をマイナスにします。

脱炭素化に向け、SDGs貢献アプリでのCO2削減相当量を毎年25%増加させ、2026年度に2024年度比で150%達成します。

大会運営のサステナビリティ向上のため、年間20大会においてドローンマークを活用します。

セーラーの環境意識向上・国民への訴求のため、加盟団体とともに、公認大会等でのサステナビリティ活動をSNSによって毎日50投稿発信し、1000シェア、1万ビューを獲得します。

外洋艇・クルーザーの自然エネルギー（太陽光発電等）の取り組みを推進します。



片瀬江の島駅から江の島ヨットハーバーまでの路上およびハーバー周辺でゴミ拾いを実施した。2日間で合計17.9kgのゴミを回収し、そのうち1.1kgがシングルユースプラスチックであった。

SDGsアプリに改修が発生したものの、全7大会で使用し、17,078gのCO2を削減。

年間で26大会にドローンマークを活用し、CO2排出量の削減に貢献した。

環境委員会のFBアカウントにて、25投稿、33シェア、9,005ビューを達成した。

加盟団体が自然エネルギーの取り組みを実行した。

# 大会補助金の取り組み

セーリング大会の参加者に環境意識を啓発することを目的として、環境に配慮した取り組みを実施した大会に補助金を交付しています。ビーチグリーン、マイボトル推進、不要セールを用いたバッグ制作など、様々な取り組みが行われました。

第22回全日本中学生ヨット選手権大会



第60回全日本K16級ヨット選手権大会



2024ウインドサーフィンTECHNO293全日本選手権



第89回全日本学生ヨット選手権大会



第11回全日本Melges20クラス選手権大会



第57回全日本モスクラスヨット選手権大会



# SDGs貢献アプリ

アプリを通じてSDGsへの貢献度を可視化することにより、セーリングコミュニティ全体での環境意識の向上を目指しています。

## 目的

当アプリは、セーリング大会の参加者やJSAF会員が日常生活や大会活動を通じて持続可能な社会の実現に向けた行動を促すことを目的としてリリースいたしました。セーラーたちが取り組んでいる環境配慮がどのくらいSDGsに貢献しているかを具体的に把握できるよう、日々の小さな貢献が可視化することで、環境意識の向上と持続的な行動が促進していきます。



#	大会名	CO2削減相当量(g)
1	江の島オリンピックウィーク	12,348
2	全日本中学ヨット大会	434
3	全日本高校生ヨット大会	146
4	全日本自治体ヨット大会	146
5	スナイプ全日本大会	3,757
6	全日本K16大会	116
7	インカレ個人戦	131

CO2削減相当量の合計:

# 17,078g

なお現在、SDGs貢献アプリに不具合が生じており、選手および関係者の皆様には多大なるご迷惑をおかけしております。環境活動に積極的にご参画いただいている皆様に対し、弊委員会からご案内しておりますアプリに不備がございましたことを、心よりお詫び申し上げます。

# ドローンマークの活用

環境にやさしいレース運営を実現するため、ドローンマークの利用を推進し、2024年度は26大会に導入いたしました。

## ドローンマークとは

GPS信号を活用し位置制御をする電動マーク。通信回線を用いて、タブレット端末アプリから簡単にコントロールできる



## 導入の目的

1. **セーリングレースにおける海洋環境保全への意識醸成**  
ドローンマークを活用したレース運営を全国のセーリング関係者に体験してもらい、運営ボートの削減や走行距離の短縮によりCO2排出量を削減、さらにアンカーを使用しないことで海底環境への負担を軽減します。これにより、海洋環境に配慮した運営意識の向上を促し、従来困難だった海域での新たな競技大会開催を目指します。
2. **各レースにおける持続可能な運営を実現**  
高齢化社会に伴う運営人員の確保困難を解決するため、ドローンマークの導入を促進。人員および経費削減に寄与し、レース運営の効率化とレスキュー体制への人員転換を可能にする。

## 今年度導入した大会の紹介(一部)

#	日程	大会名	場所
1	5月23日-27日	江ノ島オリンピックウィーク	神奈川県江ノ島
2	6月8日-9日	能登半島地震復興支援第39回全日本スナイプ級ヨットマスターズ選手権	富山県新湊マリーナ
3	8月12日-17日	全日本高校総体	和歌山セーリングセンター
4	8月21日-25日	第77回全日本スナイプ級ヨット選手権大会	鳥取県境港公共マリーナ
5	8月24日-25日	第14回 ”海の甲子園” ユースセーリングカップ 2024 西宮セーリングカップ	新西宮ヨットハーバー
6	9月21日-23日	全日本ミドルボート選手権	静岡県スパマリーナ熱海
7	10月11日-14日	全日本420級セーリング選手権	宮城県閑上ヨットハーバ
8	10月17日-20日	第56回全日本OP級セーリング選手権	愛知県海陽ヨットハーバー

# 環境アンバサダー制度のご紹介

当連盟は環境アンバサダーを設置し、環境保護活動を外部に発信していく取り組みをおこなっております。



## 渡部 雄貴 (Yuki Watanabe)

1995年1月9日 愛媛県松山市出身

9歳の頃セーリング競技に出会う。中学生の頃OP級で日本代表となり、更に上を目指したいと決意。高校生となり強豪国のニュージーランドへ留学しニュージーランド代表まで上り詰める。



## 植田 実 (Minori Ueda)

1995年1月22日 兵庫県西宮市出身

大学までの14年間、バレーボールに打ち込む。高校で関西選抜、大学では全国ベスト16を達成。関西大学を卒業後、外資系金融機関の道へ進む。恵まれた運動神経と体格を活かすために、2021年からセーリングに挑戦。



第89回全日本学生ヨット選手権大会にてエコバッグ制作ワークショップを実施



第89回全日本学生ヨット選手権大会に出席し、セーリング界の環境の取組や海外の状況について発信

# BIOTECHWORKS-H2との取り組み

当連盟はBiotech Works H2と連携し、セーリング競技で発生する不用品を再生可能エネルギーへ変換する取組を推進しております。

## 大会・イベントで回収

廃棄予定のウェアを回収するBOXを  
セーリングレース大会やイベントに設置



## プラントで水素エネルギー化

ガス化処理のため、通常の燃焼処理プラ  
ントに比べ80%排出量が少ない



# その他トピックのご紹介



江ノ島オリンピックウィークにて子どもたちとゴミ箱の作成やビーチクリーン活動を実施しました。このゴミ箱を大会期間中、会場に設置し好評を得ました。またウォーターサーバーを用意することで、選手自身が自身のウォーターボトルを利用し、ペットボトルの削減に寄与しました。



World SailingとOne Ocean財団のコラボによるSail 4 Change、Amerigo Vespucci 号来航記念—ジュニアセーラーの環境教育啓蒙コンテストで、葉山セーリング協会の石井瑠里さんの作品「せまる赤潮」が選ばれました。



SAGA2024国民スポーツ大会のセーリング競技会場で、使い古したセールをリユースしたエコバッグ制作ワークショップ開催しました



「JSAF Class/Club of the Year 2024 Presented by ENEOS」の環境貢献を表彰するGreen 賞として先進性、汎用性、インパクト、独創性の観点から「せとうちブループロジェクト実行委員会」が選ばれました。

# サステナビリティ推進パートナーのご紹介

以下のサステナビリティ推進パートナーとともに、セーリング競技を通じて自然環境保護に取り組んでまいります。

